

令和 5 年度 国分寺市障害者基幹相談支援センター事業報告

1. 事業全体を振り返って

1) 事業運営

市との仕様書にある事業は、概ね予定通りに遂行できた。一方で、現在、市内の相談支援事業所は、新規の計画相談を受け入れる余裕はなく、困難な状況にある。加えて、2 か所の相談支援事業所の廃業、市直営の障害児相談支援事業所つくしんぼ（以下、「つくしんぼ」という）の民間委託に向けた新規受け入れ中止による影響もあり、このままでは、年間約 150 名のセルフプランが増加していくことが予想されている。また、令和 5 年第 2 回の自立支援協議会全体会においては、この状況は危機的ではなく、「危機」であると確認された。相談支援体制の強化と充実は喫緊の課題であり、課題を解決するための会議体を招集することとなり、以下の取組が開始された。

（1）市・基幹相談支援センター・市内の社会福祉法人による相談支援体制検討プロジェクトチーム

（2）単独では機能強化できない相談支援事業所のための、複数事業所による協働型機能強化相談支援体制プロジェクトチーム

（3）新たに相談支援事業の開業を考えている障害福祉サービス事業所に対する、相談支援事業での黒字運営についての説明

2) 利用者支援

地域包括支援センターからの 8050 問題の相談が増加傾向にある。福祉サービスにつながっても課題が全て解決することは少なく、困難を抱えたままでの支援継続となるケースが多い。このようなケースの支援者を支えていくことも基幹職員の役割であり、「チーム国分寺」を念頭に置き、支援者からの相談を決してたらい回しにしないように努めた。一連の支援は、基幹単独で行うことはなく、常に障害福祉課と情報共有しながら 1 つ 1 つ丁寧に対応してきた。これらの姿勢や取組が関係機関における基幹への信頼感に繋がり、高齢福祉課主催の新任ケアマネ研修・生活支援隊養成研修講師の他、地域包括支援センター主催の小地域ケア会議への参加依頼をいただくようになった。令和 5 年度は新たに高齢福祉課主催のケアマネ研修や地域包括支援センター全体会での研修にも参加依頼をいただき、障害福祉についての説明や有意義な意見交換が行われた。また、高齢福祉課、地域包括支援センター、障害福祉課、基幹相談支援センターの四者で、障害者の介護保険へのサービス調整に関わる取組についての検討が始まった。障害者の高齢化が進む中、この連携は分野を超えた新たな取組のモデルとなる可能性があり、積み重ねていくことでより効果的な連携に繋がっていると期待される。

（1）国分寺市障害者地域自立支援協議会ニューズレター

自立支援協議会が発行するニューズレターの新企画は、第 11 号（令和 4 年度）から始まり現在、第 14 号まで発行した。文字による協議会の報告だけでなく、写真や地図を多用し、14 号から QR コードで動画も見られる等、支援者がサービスを必要とする利用者と一緒に見てイメージを膨らませることができるような内容で作成した。この取組は、協議会の石渡会長から、「おしゃれで、これほどの内容のニューズレターは都内には見当たらない」と評価をいただいている。これらの成果は、職員の様々な工夫やアイデアに加え、“より良いものを”と何度も基幹内で協議し、印刷業者に意図を伝えながら校正を繰り返した結果と捉えている。現在、支援者向けに 1,000 部を発行しているが今後、更に多くの人に情報発信することも考え、紙での発行の見直しやウェブサイトでの発信等、発行の仕方を市と協議していく。

（2）基幹独自のホームページの充実

（ア）相談支援部会での協議を受け、インターネットに点在する防災に関する情報をホームページに集約して、情報を分かりやすく提供する「障害のある方むけの防災情報まとめサイト」を作成した。防災に関する有益な情報やツールを案内し、障害当事者やその家族、支援者が、必要な防災情報

を入手できるようにした。また、言葉の理解が困難な方に配慮して、「やさしい日本語」のページも作成した。

(イ) 令和6年4月1日より施行される「障害者差別解消法」の改正により、合理的配慮が義務化される。Web アクセシビリティへの対策も義務化となり、基幹では市民が閲覧することを想定するWeb ページの「Web アクセシビリティ」への対策に取り組み、主要な基幹コンテンツの国内規格「JIS X 8341-3:2016」の準拠度レベルAを達成した。

※情報アクセシビリティ：Accessibilityは「利用のしやすさ」のことで、高齢者、障害者をはじめ、あらゆるユーザーがパソコンやWeb ページなどの情報資源を不自由なく利用できる「ユニバーサルデザイン」の考え方。

(ウ) 相談支援専門員をサポートする当該コンテンツを充実させてきたが、中でも「情報提供フォーラム」は令和4年度に114件、令和5年度（3月18日現在）は204件の情報を発信することができた。ホームページのページ閲覧数は、令和4年度11万2,583PVから令和5年度（3月18日現在）26万182PV（前年度比2.3倍）、訪問数は令和4年度1万2,728名から令和5年度（3月18日現在）2万4,298名（前年度比1.9倍）と増加している。これらの情報発信は、相談支援専門員のサポートとして整備を始めたが、防災情報やグループホームの紹介動画等、年々充実し、想定をはるかに超える数の相談支援専門員が訪れてくれるようになっている。現状においては、一定程度の成果が出せたと捉えており、今後は必要に応じて外部業者等の活用を検討し、質の維持と向上を図っていく。

2. 事業計画の個別事業の進捗状況と課題

1) 相談支援事業所のサポート

- ・11事業所の面談を実施した。全事業所（12事業所）との面談の予定であったが、2事業所は年度末での廃業が決まっており、うち1事業所は、採算が取れないことが廃業理由であることを聞き取った。
- ・つくしんぼのアウトソーシングが決定し、事業所引継ぎは中止となったが、既に引継ぎが決定していたケースは基幹が立ち会い、丁寧な引継ぎを行った。
- ・都内で黒字運営している相談支援事業所を訪問・情報収集し、国分寺市でできる方法を検討し、相談支援体制検討プロジェクトチーム（以下、「PT」という。）（4法人・市・基幹）と協働型機能強化相談支援体制PT（4事業所・市・基幹）を立ち上げ、新規事業所支援として黒字化運営方法の説明を2件行った。
- ・相談支援従事者初任者研修は5名、相談支援現任者研修は7名受け入れた。現任研修では、個別ケースから施設全体のコンサルテーションにつなげることや、相談支援事業所の運営状況等の課題を聞き取った。

2) コンサルテーションの実施

- ・予定では9ケース×2時間＝18時間のところ、9ケース（10回）×2時間＝20時間実施した。
- ・令和4年度コンサルを受けた事業所は6事業所だが、令和5年度は4事業所であった。

3) 相談支援専門員向け研修の企画・運営（基本：新任研修1回/年、ブラッシュアップ研修1回/年、勉強会2回/年）

- ・新任研修：1回

例年通り、障害福祉課から計画相談における請求等について、新任の相談支援専門員を含め参加者全員で学ぶ機会をもった。

- ・ブラッシュアップ研修：8回

危機状態にある相談支援体制の改善のために相談支援事業所の黒字化を図るための勉強会を行い、相談支援体制検討PT編成につないだ。

- ・事例勉強会：1回

つくしんぼのケース（児童から成人へ）の引継ぎケースがないこと、相談支援体制の問題解決のた

め、開催を1回とし、ブラッシュアップ研修を増やした。

4) 支援者向け虐待防止研修の企画・運営

・毎年12月開催が定着し、年々参加者が増加している。虐待防止と身体拘束禁止についての研修は悉皆研修となっており、市内の各事業所の研修会として利用いただくため、会場とオンラインとのハイブリットにし、参加しやすい場所で事業所の職員が同時に受講できる利便性を追求してきた。

5) ネットワーク研修の企画・運営(スキルアップ研修Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ)、地域ネットワークの構築と拡大

・ネットワーク研修Ⅰ(地域移行)は元都立精神科病院と地域の精神科病院の看護師の仕事に視点を当て企画した。研修Ⅱ(高齢福祉－障害福祉の連携)は、8050世帯への支援について精神科病院の医師を招いた。研修Ⅲ(障害児)は障害児のいる家族支援の研究者である大学教授を招いて開催した。

- ・市内の地域包括支援センター6事業所の訪問を実施した。
- ・社会福祉協議会との意見交換会を1回実施した。初めて成年後見、研修等の意見交換をした。

6) 自立支援協議会 マネジメント業務

- ・全体会3回/事務局会議7回
- ・相談支援部会3回/事務局会議3回
- ・就労支援部会3回/事務局会議3回
- ・精神保健福祉部会3回/事務局会議5回
- ・相談支援事業所連絡会12回
- ・障害児通所支援事業所連絡会2回/事務局会議2回
- ・地域移行等支援連絡会10回/打合せ他7回
- ・防災情報まとめサイト管理
- ・ニューズレター発行2回/打合せ、取材他25回

第13号は、地域活動支援センターを特集。第14号は、ショートステイ・ミドルステイを特集。QRコードを掲載し、写真と共に動画も見られるようにした。

7) 市との定例協議・その他連絡会等

- ・市－基幹定例協議12回。定例協議は職員全員参加した。
- ・医療的ケア児支援関係者会議3回、事務局会議4回。センター長が副会長として出席し、事務局として主任が参加した。
- ・地域ケア会議権利擁護部会(定期年2回)。高齢福祉課からの依頼で委員として参加した。
- ・消費者見守りネットワーク(定期年3回)。経済課の依頼で参加したが、内2回は地域ケア会議と同日開催された。
- ・権利擁護関係機関連絡会(定期年2回)。センター長と職員の2名で参加した。
- ・障害者/高齢者実務従事者虐待防止ネットワーク2回。障害福祉課と高齢福祉課からセンター長に依頼があり参加した。
- ・相談支援体制検討プロジェクトチーム2回。打合せは市と基幹で行い、4法人・市・基幹で検討を開始した。
- ・協働型機能強化相談支援体制プロジェクトチーム1回。参加希望事業所を確認し、スタートアップ会議を開催した。
- ・基幹相談支援センター連絡会(定期年3回)。オンラインで開催し、ホストは持ち回りで行った。

8) 緊急度の高いケースの把握

- ・相談支援専門員の依頼により、市と基幹が訪問に同行し、緊急入所保護事業の説明を行うが、令和5年度は依頼がなかったため、緊急把握の情報確認のみを市で行った。
- ・令和5年度の緊急入所保護事業は、殆どの相談が日中に入っていたため、基幹として支援に関わ

ることはなかった。

- ・緊急携帯は、センター長、主任、職員1名で持ち、夜間、休日に対応した。

3. 活動実績

令和5年度 相談業務実績（令和5年4月1日～令和6年3月31日）

相談支援件数	3,510 件
--------	---------

【個別ケースに関わる相談業務】

支援方法別件数

	訪 問	来所相談	同 行	電話等 相談	電子 メール	個別支援 会議	その他	計
件数	165	117	9	1,061	53	16	2	1,423

支援内容の内訳

	福祉サービ スの利用等 に関する 支援	障害や症状 の理解に関 する支援	健康・医療 に関する 支援	不安の解 消・情緒安 定に関する 支援	保育・教育 に関する 支援	家族関係・ 人間関係に 関する支援	家計・経済 に関する 支援	生活技術に 関する支援
件数	926	301	295	187	21	380	132	404

	就労に関す る支援	社会参加・ 余暇活動に 関する支援	権利擁護に 関する支援	虐待防止に 関する支援	地域移行・ 地域定着に 関する支援	その他	計
件数	63	58	68	23	59	118	3,035

【地域のネットワーク体制の構築及び研修等に関わる業務】

支援方法別件数

	訪 問	来所相談	電話等 相談	電子メール	その他	計
件数	165	206	829	884	3	2,087

【月別対応件数】

	個別相談件数	対応ケース数	その内の 新規ケース数	個別相談以外
4 月	124	45	10	138
5 月	144	37	7	136
6 月	120	31	9	251
7 月	141	40	12	206
8 月	156	30	9	190
9 月	118	36	9	184
10 月	99	35	12	192
11 月	144	51	8	212
12 月	95	34	9	171
1 月	62	26	8	149

2月	65	40	8	129
3月	155	30	7	129
合計	1,423	207（実数）	108	2,087

⑤地域の相談支援事業者の研修等

日付	テーマ及び内容	対 象	備 考
5月18日	【ブラッシュアップ研修】 テーマ：相談支援向け提供サービスの説明 講 師：（社福）宝もの 教室事業部・進路担当 国府 由香利 氏 会 場：KOCO・ジャム2階 多目的室	・相談支援事業所	参加者 ：14名
6月15日	【ブラッシュアップ研修】 テーマ：フードドライブ説明 講 師：国分寺市社会福祉協議会 地域福祉コーディネーター 野村 拓夢 氏 会 場：KOCO・ジャム2階 多目的室	・相談支援事業所	参加者 ：10名
7月14日	【ネットワーク研修Ⅰ（地域移行）】 テーマ：「地域移行支援 in 国分寺 ～地域支援機関と精神科病院との連携～」 講 師：根岸病院 社会復帰療養病棟 看護師長 榎林 康子氏 松沢病院 患者地域サポートセンター 患者家族支援係入退院支援担当 主任 笠原 朋 氏 会 場：リオンホール AB	・相談支援事業所 ・地域活動支援センター ・障害福祉サービス通所 支援事業所 ・地域包括支援センター ・行政 ・精神科病院 ・精神科クリニック ・訪問看護ステーション	参加者 ：64名
7月21日	【ブラッシュアップ研修】 テーマ：消費生活相談について 講 師：経済課 消費生活相談室 相談員 内山 みゆき 氏 会 場：KOCO・ジャム2階 多目的室	・相談支援事業所	参加者 ：12名
8月17日	【新任研修】 テーマ：①計画相談支援、障害児相談支援における 報酬の請求、書類提出について ②提出が必要なサービス等利用計画等の 様式一覧について 講 師：障害福祉課事業推進係 係長 千田 孝一 障害福祉課事業推進係 市村 智美 会 場：KOCO・ジャム2階 多目的室 【ブラッシュアップ研修】 テーマ：「相談支援事業の黒字経営について ～障がい者の権利擁護を保障するために～」 講 師：社会福祉法人ソラティオ 理事長 岡部 正文 氏 会 場：KOCO・ジャム2階 多目的室	・相談支援事業所	参加者 ：12名
9月21日	【事例勉強会】 テーマ：権利擁護センターの概要と 相談支援専門員との連携事例 講 師：権利擁護センター 主任 泉 有紀 氏 会 場：KOCO・ジャム2階 多目的室	・相談支援事業所	参加者 ：11名

11月16日	【ブラッシュアップ研修】 テーマ：「相談支援事業所 機能強化協働 ～宮代町・杉戸町における取り組み～」 講師：埼玉北障がい者生活支援センター ふれんだむ 練生川 勇 氏 相談支援事業所ひまわり 河野 明日香 氏 特定相談支援事業所庄内 小島 修 氏 MUT 株式会社 ROAD 柏倉 瞳 氏 会場：KOCO・ジャム2階多目的室+オンライン	・相談支援事業所	参加者 ：12名
11月24日	【ネットワーク研修Ⅱ（高齢福祉－障害福祉）】 テーマ：「8050 世帯への支援 ～世帯を支えるために それぞれができること～」 講師：なでしこメンタルクリニック 院長 白石 弘巳 氏 会場：リオンホール AB	・相談支援事業所 ・共同生活援助事業所 ・障害者通所事業所 ・地域包括支援センター ・居宅介護支援事業所 ・デイサービス事業所 ・社会福祉協議会 ・行政	参加者 ：43名
12月7日	【支援者向け虐待防止研修】 テーマ：「<いつもと違う>という変化の気づきが鍵 ～幼児から10代のアセスメントが 高齢期を幸せにする?!～」 講師：武蔵野大学 教授 木下 大生 氏 会場：リオンホール AB+オンライン	・市内の全福祉事業所 ・学校、学童 ・保育所、幼稚園 ・社会福祉協議会 ・行政	参加者 ：114名 【内訳】 会場：72名、オンライン
12月21日	【ブラッシュアップ研修】 テーマ：相談を受けるということ ～ネガティブケイパビリティ～ 講師：ベル相談室 臨床心理士・公認心理師 角田 みすゞ 氏 会場：KOCO・ジャム2階 多目的室	・相談支援事業所	参加者 ：8名
2月1日	【ネットワーク研修Ⅲ（障害児）】 テーマ：「障害のある子どものいる世帯を支える」 ～家族への支援の必要性を理解する～ 講師：明星大学 教授 吉川 かおり 氏 会場：リオンホール AB	・相談支援事業所 ・地域活動支援センター ・障害児通所事業所 ・学童保育所 ・障害福祉サービス事業所 ・行政	参加者 ：43名
2月15日	【ブラッシュアップ研修】 テーマ：根岸病院との連携 講師：根岸病院 常務理事 松村 洋明 氏 会場：根岸病院地下1階 根岸ホール	・相談支援事業所 ・根岸病院看護師 ・根岸病院 OT ・根岸病院 PSW	参加者 ：35名
3月21日	【ブラッシュアップ研修】 テーマ：医療的ケア児の支援について 講師：つくしんぼ相談支援専門員 馬上 弘子氏 会場：KOCO・ジャム2階 多目的室	・相談支援事業所	参加者 ：13名

⑥権利擁護等に関わる研修及び会議への出席

月	日	研 修 名	主 催	参加人数
5	30	法人虐待防止管理者研修	社会福祉法人万葉の里	1名
6	15	地域ケア会議 権利擁護部会	高齢福祉課	2名
6	29	法人虐待防止研修	社会福祉法人万葉の里	6名
7	20	障害者・高齢者虐待の概念の理解	東京都多摩総合精神保健福祉センター	1名

10	17	「親なきあと」 コラボ勉強会	UNIBEST、ソニー生命	2名
11	22	成年後見制度講演会	社会福祉協議会、NPO 法人 ウィル	1名
11	24	法人虐待防止研修	社会福祉法人万葉の里	5名
1	21	法律ができたらどうする？	東京都高次脳機能障害リハビリテーション講習会実行委員会	2名
1	24	働くことが難しい子どものライフプラン	NPO 法人ウィル	1名
2	29	法人虐待防止研修	社会福祉法人万葉の里	4名